

「考動と努力」

皆さん、はじめまして。実習で2年生の国語科を担当させて頂くことになった関西大学より来ました齋藤美和です！

私は大学では文学部に所属していて、皆さんも知っているような平安時代の源氏物語、伊勢物語といった古典を中心に研究しています。あ、研究とは言っても皆さんがイメージするようなガチガチの専門知識が必要なものではなく、その物語に出てくる建物や人物のモデルになったものは何かを調べて行くといったことをテーマとしているんですよ。時代背景やヒントとなる出来事を頼りに推測して、そこから目星をつけて図書館の蔵書を調べていくといった少し手間のかかる内容ではあるのですが、古典文学は高校の時から好きだったので勉強することはとても楽しいと感じています。まあ、実習に入るちょうどこの時期くらいからは卒業論文を書き始める時期ということで、ああだこうだと悩みながら学生生活を送っているんですけどね^^；

また、私は幼い頃からずっとイラストや漫画を描いていて、今でも趣味としています。そういった縁もあり、大学では漫画同好会というサークルに所属しています。サークルでは作品展や会誌の冊子を印刷して本を作る作業をしたり、漫画原稿を執筆したりしています。作品は作品展に出展されますが、この作品展ではたくさんの一般のお客さん（多い時は400～500人ものお客さんが来てくださります。）に見て貰うということもあり、人の目を意識した絵（テーマ性、迫力のある構図、配色のインパクト）を描くことを念頭において作品を制作しています。こういった努力を心掛けることは決して簡単なことではありません。私自身も初めからできていた訳ではなく、今宮高校に在学していた時に所属していた美術部で学びました。今回は皆さんにそのことを少し述べてみたいと思います。

私がいた頃の今宮高校の美術部では、（今もそうかもしれませんが）結構ハードで、入部した直後と夏合宿で一枚ずつ油絵を仕上げ、その後またすぐに展示会用の1m50cmくらいの、ちょうど学校の廊下にもかかっているサイズのキャンパスで作品を仕上げます。

油絵では色の深みを出すために何層も何層も色を塗り重ねて完成させます。そのため水彩やポスターカラーなどとは違ってすぐにはできないので、展示会用の大きなキャンパスにもなると完成までに一カ月くらいの時間が掛かります。

美術部は展示会用の作品制作をメインで活動をしていたクラブでした。加えて、当時の今宮高校美術部は周りの部員達がすごく巧くて、絵の下手だった私はプレッシャーを感じてしまい、あまり楽しんで描けてはいませんでした。さっきも言ったように大きな作品は一カ月も掛けて描いていたのですが、どうしても回りの人と比べて技量の劣る自分が情けなく、悔しく思い、泣きながら作品を描いたこともありました。でも、仕上げずに投げるとというのが許せないし、投げ出してみんなに迷惑をかけるのも許せないということもあって、必ず作品は仕上げていました。それに加えて色んな人に見られることを考慮したり目

標を持って考えたりしながら、作品一つ一つを仕上げ、経験を積み重ねる内に、後から見返すと自分の絵の技量の進歩が見て取れて嬉しさも感じました。その時、苦しみながらもコツコツと努力を積み重ねておけば必ず後で自分に返ってくるのだと強く感じました。

長々と自己紹介を書いてしまいましたが私は後輩の皆さん方には勉強でも趣味でもなんでもいいので、好きな事があれば日々目標を持って考え、一つ一つ努力を積み重ねてほしいと思っています。そうすればこの先、高校を出た後、大学に行くにしろ、社会に出るにしろ、どんな形であれ必ず良い経験として自分の中で生かされていくと思います。

皆さん、自分に自信を持って頑張ってください！